



赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金・九州」（ボラサポ・九州）

第1回助成決定にあたって

はじめに

4月14日以降に熊本県と大分県で相次いで発生した地震により甚大な被害が生じました。余震が減少していくなか被災地では災害ボランティアセンターやNPO等によるボランティアの受け入れが広がり、さらには多くのボランティア団体の活動が活発化しました。

こうした状況を受け、全国の共同募金会では、熊本県共同募金会に対し赤い羽根共同募金の一部を積み立てた「災害等準備金」の拠出を決定し、いち早く災害ボランティアセンターの立ち上げと運営の支援を開始しました。

併せて、中央共同募金会では、今春まで5年間にわたり継続実施した東日本大震災被災地における「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ）」の助成実績を活かし、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金・九州（ボラサポ・九州）」の実施を決定し公募を開始しました。この決定にあたっては、東日本大震災時のボラサポ同様に財務省から指定寄付金の告示が発出されており、大規模災害時のボランティア・NPO 活動支援の際におけるボラサポの役割が社会的にも高く評価されつつあるものと思われまます。

7月19日、「ボラサポ・九州」の第1回目の助成先を決める運営・審査委員会（以下委員会）を開催し、88件、合計1億5,497万円の助成を決定いたしました。この助成により、被災された人々が一刻も早く元の生活を取り戻されると同時に、被災された人びとを支えるボランティアやNPOなどの活動が多教育ち、地域に「支え合いのしくみ」が永く根付くことを願っています。

詳細は、以下に記しますが、応募をいただいた団体の内容を見ますと、通常の災害の際にみられるような被災直後の緊急救援活動を経て生活支援活動に移行しさらには生活安定のための支援にという時系列的な変化ではなく、この災害では、炊き出し等の緊急救援活動がある一方で、孤立を防ぐサロンの開催などの生活支援活動やコミュニティの再構築に向けた活動があるなど、被災状況が異なることから地域によって支援活動の内容が様々であることが認められました。避難所から応急仮設住宅へ、さらには復興住宅へと生活環境の変化に伴い、生活支援活動の態様も変化してまいりますので、きめの細かい、かつ、被災者に寄り添った支援活動が必要と考えます。

また、要件等により残念ながら今回の選考で助成を見送った応募案件もありますが、事業の計画性や具体性を磨き、さらには、地元団体との連携を密にしたうえでの再度の応募を期待しています。

1. 第1回応募状況と助成決定状況

6月3日から開始した第1回目の助成公募では、102件、合計2億529万円の応募をいただきました。応募の内訳は次のとおりです。

- | | |
|---------------------------|---------------|
| ・「短期プログラム」（活動日数14日未満） | 25件・1,045万円 |
| ・「中長期A部門」（活動日数14日以上30日未満） | 6件・515万円 |
| ・「中長期B部門」（活動日数30日以上） | 71件・1億8,969万円 |

今回の応募からは、いくつかの傾向が読み取れました。

活動地域は、全体の応募の約 25%が益城町、約 19%が熊本市となっており、次いで西原村、南阿蘇村の順でした。熊本県内の複数市町村を活動地域としている応募も約 9%ありました。

活動内容は、子どものケアに関する活動が最も多く全体の約 14%を占め、次いで、心のケア活動が約 10%、コミュニティ支援が約 9%、炊き出し活動が約 7%でした。このほか、家屋の片付けやがれき撤去、避難所等でのマッサージ、支援物資輸送などの活動がありました。

活動団体の所在地は、熊本県内の団体が全体の 1/4 を占めていました。次いで多かったのは、東京都（約 8%）、宮城県（約 7%）で、さらに愛知県、神奈川県、埼玉県、福岡県の活動団体から多くの応募がありました。特筆すべきは宮城県と岩手県の団体が合わせて約 9%あり、災害の被災地からの支援は被災地にとって意義ある支援となることが期待されます。また、東日本大震災の支援活動の経験・実績のある団体からの応募も全体の約 4 割を占めるなど、災害支援の積み上げ、つながりが創出されつつあることにも注目したいと思います。こうした傾向に、共同募金の支援がどのように生かされたかを検証してみることも必要ではないかと思いました。

2. 選考にあたっての考え方

第 1 回の選考では、応募要項に記載したとおり、「選考にあたって重視する点」として、「目標や問題意識が明確になっているか」「被災した人たち・被災地の住民自身が行う活動であること」など、11 項目を定めました。

また、発災時からの活動ですでに終了した活動への遡っての助成も行うこととしており、既に終了している活動も多かったことから、特に支援活動の実績を重視した判断を適切に行うために、必要と判断した場合には活動団体や現地の状況を確認するため、聞き取り調査を別途させていただきました。

3. 今後の予定について

第 2 回目の応募受付は 9 月中旬を予定しています。

第 2 回の応募要項は、一部見直したうえで 9 月上旬に中央共同募金会ホームページで公表します。助成対象となるのは、第一次応募受付の締め切り日の翌日（6 月 16 日）以降の活動です。詳しくは応募要項をご覧ください。（赤い羽根中央共同募金会ホームページ：<http://www.akaihane.or.jp/>）

「ボラサポ・九州」の助成の特色は、5 名以上のグループでの応募が可能なことです。法人格の有無は問いません。次の社会を担う若い世代の皆さんをはじめ、多くの皆さまからの応募を期待しております。

最後となりましたが、4 月 14 日の発災直後より全国の個人・企業の皆さまより多くのご寄付をいただきました。深く感謝しますとともに、今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者の方がたから託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、有意義な活動を展開されるよう望みます。

赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金・九州」
運営・審査委員会 委員長 山崎美貴子